

K E
気

SGH 通信

K O H
高海を素材とするグローバルリテラシー育成
～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～

第16号 平成30年6月19日発行

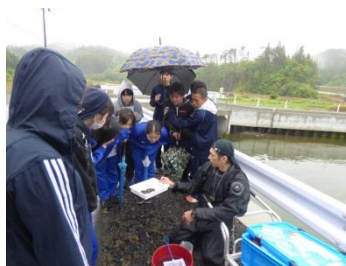
SGH指定3年目を迎えました。「思考力」「コミュニケーション力」「多様性・協働性・行動力」を兼ね備えたグローバル人材の育成を目指し、今年度もSGH事業を展開していきます。昨年度同様「SGH通信」ではSGHとしての取組を中心とした生徒の活動を紹介します。平成28、29年度に発行した第1号～第14号及び「SGH事業構想についての概要」は気仙沼高校のホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

2年生「創造類型」唐桑でフィールドワークを実施

5月18日(金)、2年生創造類型37名は唐桑にあるNPO法人「森は海の恋人」の研究施設を訪問しました。始めに、首都大学東京都市基盤環境コースの横山勝英教授より、研究を行う上での大切な視点や心構えなどについて講話をいただきました。その後、乗船体験と海上調査、干潟見学と周辺散策、海洋プランクトンの採集と観察を行いました。短い時間ではありましたが、地域にある研究素材についての理解を深められるフィールドワークとなりました。今回のフィールドワークを参考に研究テーマを絞り込み、具体的な研究に向けての計画書を作成して研究を行っていきます。



乗船体験，海上調査



干潟見学，周辺散策



プランクトン観察

1年生「地域理解講座」を実施 研究テーマ決定の参考に！

5月22日の5校時から7校時の時間に、1年生「地域社会研究」において「地域理解講座」を実施しました。地域が抱える課題や現状についての理解のために、5人の講師の方に来ていただき、ご講演をいただきました。今後、5つの講座を参考にして研究テーマを決定していきます。

＜海と産業＞気仙沼市産業部産業再生戦略課長補佐兼企業戦略係長 平田智幸 氏

【生徒の感想】 気仙沼市では震災の復興に向けた様々な取り組みを行っており、震災前の状態に戻るのではなく、さらに活発化した「水産だけではない水産のまち」を目指していることが分かりました。また、復興がかなり進んできた気仙沼ですが、まだまだ課題も多く、気仙沼の良さをアピールするために観光と水産などの産業を融合させた取り組みもあると知りました。／気仙沼の今後の産業の発展に自分も協力してみたいと思いました。産業においてもグローバル化が必要で、世界的に有名なまちにするために私たち高校生ができることは何か、これから考えてみようと思います。



＜海と防災＞気仙沼市総務部危機管理課主査 鈴木正人 氏

【生徒の感想】 明治三陸地震津波と昭和三陸地震津波を比べたときに、明治より昭和の死者が減っているのは、明治の人たちが震災を忘れずに昭和の人たちまで語り継いでいったからであると知り、私たちも震災を忘れず後世につなげれば次起きたときに被害を防げるのではないかと思います。／東日本大震災は想定外の連続だったという話を聞き、自分たちが普段行っている避難訓練でも「もしこれが駄目だったら」「もし途中で～～が起きたら」と常に多くのことを想定しなければならぬと感じました。

<海と人間> 気仙沼市震災復興・企画部震災復興・企画課長 小野寺憲一 氏

【生徒の感想】 気仙沼の復興が震災前を目指しているのではなく、震災を糧に地域課題の解決と共にさらに新しいものを目指していると分かった。／気仙沼に人を呼ぶためには都会の真似ではなく、気仙沼ならではの良い点をグローバルな視点で見ることが必要だと思った。気仙沼には日本一の水産物があり、造船技術があり、震災経験があり、世界につながる海がある。このような都会にはない良さをどのようにPRすれば人を呼び込めるのか調べてみたいと思った。／気仙沼を世界とつながりのある活気あるまちにするために、現在市が行っている活動に加えて、新しい視点から様々な考えをもって発信していきたいと思った。



<海の文化> 元東北大学災害科学国際研究所教授 川島秀一 氏

【生徒の感想】 気仙沼の歴史をじっくり聞くのは初めてでした。そのため、「気仙沼市の湾は埋め立ててつくられたこと」や「カツオは昔からの重要な産業であり、いつも気仙沼市民の近くにあったこと」などは、とても驚きました。／震災の影響で工場は全滅してしまっただけで、その状況を活かして分散していた工場を1つにまとめるということが行われていると聞き、どんな状況でもそれを活かして新たな町へとつなげていくことが町づくりの本当の意味だと思いました。日本人の魚離れの一方、世界では魚を食べることが増えているということを活かして世界へつなげていくなど、気仙沼をアピールする方法はあるということを知りました。



<三陸の自然> NPO法人「森は海の恋人」研究員 白幡勝美 氏

【生徒の感想】 気仙沼市の自然の現状を聞くことができました。山は放置状態になっていることや、川は、護岸工事の影響で水が流れるだけの状態になり、川としての機能を失ったことを知りました。自然が多い気仙沼で今後このようなことの進行を防ぐために自分たちができることを考えたい。／田畑の放置によって使われない土地が増えているという問題の原因として、少子高齢化や農業離れが挙げられたのですが、農業離れは大震災の影響も少なからずあると聞いて、問題の原因は1つではないのだと感じました。



「読売新聞東北総局長講演会」

5月23日（水）に、2年生創造類型37名と1年生240名を対象に、読売新聞東北総局長の小野一馬氏にお越しいただき講演会を実施しました。講演では、「ニュースとは何か」「ニュースの現場」「ニュースをどう伝えるか」についてお話いただきました。ニュースを書く上での編集方針の検討や実際の取材、その取材結果の分析についてなど、これからの研究活動に役立つ知識を知ることができました。また、ニュースを分かりやすく伝えるための、簡潔明瞭な文章の書き方、伝えたいことを絞るためのポイントを教えていただき、研究発表に活かせる知識を学ぶことができました。



【お知らせ】 C-cube <英語学習推進組織>の活動に積極的に参加しよう！

英語運用能力を活性化させることを目的に英語科が中心となり“C-cube”を展開しています。内容とコースは次の通りです。

- ① Career course（キャリア育成コース）：英検、GTECの直前対策講座
- ② Cross-culture course（異文化理解促進コース）：海外在住の人々と、スカイプを通じて交流を行う。交換留学生の受け入れが生じた際、ホームステイ先の提供等を行う。

※一昨年度より継続：クロスカルチャーセミナー・ALTとの英会話・スカイプ交流

- ③ Creation course（創造力向上コース）：英語コンテストの運営、Express Yourselfへの参加、つばさネットワークとの交流、校内発表



エリザベスタウン大学のみなさんと交流しました！

5月31日（木）にエリザベスタウン大学（ペンシルバニア州）の学生13名が気仙沼高校を訪問しました。3年生創造類型34名で歓迎セレモニーを行い、気仙沼市についての紹介や課題研究についての紹介などを通して交流を深めました。また、放課後にはC-cubeのクロスカルチャーセミナーとして希望生徒29名が集まり、学生とのフリートークを楽しんでいました。